

— 第1日 9月19日(金) 10:00~12:00 —

## S02 健康の心理生物学

S2

企画者	札幌医科大学	澤田 幸展
企画者	札幌医科大学	田中 豪一
司会者	札幌医科大学	田中 豪一
司会者	札幌医科大学	加藤 有一
話題提供者	札幌医科大学	田中 豪一
話題提供者	久留米大学 高次脳疾患研究所	岡村 尚昌
話題提供者	別府大学	矢島 潤平
話題提供者	University College London	Mark Hamer#
話題提供者	大阪人間科学大学	山田 富美雄
指定討論者	久留米大学	津田 彰

## 概 要

健康の心理社会的メカニズムを解明しその増進に貢献することは、健康心理学と生理心理学の課題だが、これまでわが国では健康の生物学的メカニズムにまで踏み込む基礎研究に不十分な面があった。本シンポジウムでは、この領域の世界的水準を代表する英国ロンドン大学 UCL の Psychobiology グループから若手研究者を招き、健康の基礎的生物学のメカニズムを本格的に扱った日英の研究を交換する。そして、生物学と協同する生理・健康心理学の将来の方向性を共に考えたい。

## 1. ストレス研究の新しいパラダイム 田中豪一

アロスタシス概念は、心理社会的ストレス問題の新しい理論枠を提供する。アロスタティック負荷は、自律神経系・内分泌系・免疫系の多システムを横断する長期的調節不良、適応のためのコストを意味し、少数の生理指標の総合として操作的に定義される。無数の心理社会的要因は、適応要因としてのアロスタティック負荷を介し、動脈弾性、血管内皮機能、インスリン抵抗性などに反映する健康状態に帰結する。田中は若年青年男子のアロスタティック負荷が血管健康度に及ぼす影響を報告する。

## 2. 唾液バイオマーカーの有用性 岡村尚昌・矢島潤平

精神神経内分泌免疫学 (PNEI) の指標、特に唾液から得られる交感神経系の指標 MHPG、交感神経-副腎皮質系指標コルチゾール、ならびに IgA は簡便性の点で有用である。岡村・矢島は、主観的幸福感やネガティブ気分とコルチゾール起床反応との関連性を報告すると共に、PNEI 反応が不安・抑うつ症状の治療の効果判定にいかほど有用であるか等、実験室とフィールドを結ぶ多様な場面での知見をアロスタティック負荷の枠組みから考察する。

## 3. コホート研究への心理生物学の貢献 Mark Hamer

健康の心理社会的要因を探る手法に疫学コホート研究がある。名高いホワイトホール研究は、サッチャー政権時代の民営化に伴い、社会混乱に見舞われた英国公務員を対象とした健康研究として知られている。ホワイトホール II はこれを継承し、Dr. Hamer は、CT 画像により冠動脈疾患の臨床的リスクを推定済みの 600 名以上の対象集団に対して、メンタルストレステストを実施し、食生活などのライフスタイルを含む心理社会的因子と血管の炎症を関連づける生物学的メカニズムを解明するプロジェクトに取り組んでいる。

## 4. ポジティブ健康の生理心理学 山田富美雄

ウェルビーイングとは、主観的な健康観、生きていることへの満足感に近い概念である。満足した状態は、快適な気分・感情で満たされた生理心理状態であると考えられる。そこで、主観的な快適性評価と対応する生体反応の振る舞いから、ウェルビーイングを他覚的に評価する生理心理学的測定の可能性が浮かび上がる。山田は、ポジティブな健康・人格要因が、身体的健康をどう修飾するか？唾液中 PNEI 指標による分析を紹介する。